赤鬼

高校生と創る演劇

RED DEMON

2015
11/7土8日

報告書

PLAT
穂の国とよはし芸術劇場
TOYOHASHI ARTS THEATRE

RED DEMON

I have a dream that one day this world will rise up and
live out the true meaning of its creation.
We hold these truths to be self-evident that all men are created equal.
Let freedom ring, I have a dream that
one day let freedom ring from every hill,
from every mountaintside, every village and every hamlet,
from every state and every city.

不確かな未来を生きる羽目になった「赤鬼」の村人たちへ

構成・演出　**黒澤世莉**

2020年5月10日は全世界的に新型コロナウィルス感染症が流行しており、日本もその例外ではない。4月7日に5月6日までの緊急事態宣言が発令され、それが5月4日に5月31日までの延長が決定されたばかりである。

未曾有の事態の中で、演劇人は窮地に立たされているが、日本全国、一部を除いたあらゆる業界が困難に直面している。報道やSNSでは、演劇を含めた芸術の窮地が喧伝され、一方で演劇人の発信に対して「演劇や芸術だけ特別扱いするな、需要のないものは滅べば良い」などの手厳しい批判の声があがってもいる。

「演劇の死」を憂う声も演劇業界からは聞こえてくるが、私が思うに、演劇は死なない。ただ演劇人の一部は活動が続けられなくなるだろう。その時点で、その一部の持っていたナレッジは失われる。演劇は死なないが、演劇人は死ぬ。ナレッジが失われてしまうダメージをいかに低く出来るか、そのための支援を感傷に流されずに考え、発信していく必要がある。当然社会とのコミュニケーションが必須だ。そして、社会とのコミュニケーションこそ、わたしたち演劇人がサボってきたことであるということが、いま浮き彫りになっていると考えている。

なぜ「赤鬼」を語るにあたって、一見関係のないことを書き連ねたのかといえば、演劇を囲む状況が当時と今とで全く変わってしまっているからだ。振り返って考えれば5年前はのどかな時代だった。演劇をやること、人が集まることに、病気のリスクも不安も葛藤も無かった。宣伝し客席を埋めることに苦労することはあっても、公演をすることが批判の対象になるようなことはなかった。それが今では、演劇の上演どころか創作もできない状況だ。

一方で、オンライン演劇やそれに類する取り組みが生まれ発信されている。それ自体は歓迎すべきことだ。仮にそれがいまはまだ不完全なものだとしても、今後新しい演劇か、演劇ではない芸術に化けるものの萌芽かもしれない。それはそれとして広まればいい。しかし、「劇場に観客が集まり、俳優たちが紡ぐ時間を想像力を持ってともに過ごす」という従来どおりの演劇が日本でいつ再開できるのか、現在は誰も分からない状況だ。

「赤鬼」という作品をつくるため、大人と高校生が集まって、演劇をつくり、上演できた。それがいまでは奇跡のように感じられる。

「赤鬼」は異邦人が村社会において差別され、排除される物語である。わたしは人間が人権という概念を理解するのが下手だととらえている。「赤鬼」の異邦人という概念を外国人だけでなく、性差、性的少数者、人種、見た目、家柄、学歴、職歴、政治的志向など、あらゆる少数派に置き換えてとらえてほしい。人権を蹂躙される人間の絶望を描いた非常に重いメッセージを与える作品であることがはっきりする。そして忘れてはいけないのは、自分たちが村社会の村人の立場にたってしまう可能性が常にあるということだ。わたしは自分の被害者性にばかり気を取られ、つい自分も加害者になりうることを忘れてしまう。

重いメッセージがある一方で、その先の希望も描かれている。いずれ人間は絶望の眠った海を越えて、様々な差異を乗り越えて手を取り合い鐘を鳴らすことが出来るのではないか。この希望は演劇らしい非現実的な絵空事に過ぎないのだろうか。自分が生きている間にはそんなことは起きないかもしれないが、絶対にないとは言えない。少なくともわたしは、100年後の人類がその可能性を信じられるようなお膳立てはしていきたいと思っている。

わたしは「赤鬼」を、6週間のリハーサルの中で、できるだけ高校生たちの主体性に委ねてつくった。「プライチ」という、PLATで行われる演劇の中で一番を目指すという目標も彼らが考えたことだ。わたしたち大人は彼らの目標を達成するために、しっかりと枠組みをつくり、土台を支える仕事をした。高校生たちはその中で表現すること、熱量、メッセージを自分たちで考え議論し、一人ひとりが選んでいった。

いままで当然続くと考えられていた未来は不確かなものとなってしまった。当たり前だと思われていた世界が当たり前ではなくなってしまった。そういう時代に、主体性を持ち、自分で目標を立て、周囲の仲間と議論し考えて作品をつくった経験は、きっと役に立つ。世界を変えるためではない。世界によって自分が変えられないために。

彼らがいまどういう人生を歩んでいるのか、どういう人間になっているのか、わたしは知らない。演劇を続けているのかいないのかも分からないし、演劇のことなんて忘れてくれて構わない。続けていてもいなくても、彼らの人生を応援したい。6週間も真剣に作品を作った仲間を、いまさらただの他人だとは思えない。

ただひとつだけ、彼らが赤鬼を迫害する立場ではなく、赤鬼の側に立つ人間になっていてくれたらいいなと思っている。

もしそうなっていたとしたら、これ以上に幸福なことはない。

August

September

October

November

夏のプレワークショップ

8/18火–21金

オーディション以来、初めての顔合わせ。出演者・学生スタッフは緊張とワクワク。演技や動きの基礎、赤鬼の衣裳パーツ作り、音具を触ってみるなど濃厚な4日間でした。

衣裳合わせ

10/4日

及川千春さんの製作した衣裳を試着。上下シャツで作られた衣裳にみんなビックリ。鏡に映るスタイリッシュな自分の姿になんだか落ち着きません。

ヘアメイク合わせ

10/10土

髪型・メイクを試行錯誤。どんな髪型が役柄に合うか出演者たちにそれぞれ考えて作ってきてもらいました。

第2回 通し稽古

10/11日

毎週日曜日に行う通し稽古。本日2回目。稽古開始から2週間が経ち、全体の流れが見えてきました。でもセリフ覚え、動きはまだまだ。頑張れ！

ビューティレッスン

夏のワークショップの時から行っている〝ビューティレッスン〟。リズムに合わせ、正しいフォームで行う筋トレ・ストレッチで体幹を鍛えます。

音具の稽古

「赤鬼」ではこの〝音具〟という楽器を出演者が鳴らして生の効果音を生み出します。リアルな音を出すのにはコツとイメージが重要。

舞台美術を組む

10/21水

美術セットの網が稽古場に吊られました。網一つで劇空間が様変わり。

第4回 通し稽古

10/25日

ヘアメイク・衣裳付きで行うテクニカルスタッフ・関係者総見の通し稽古。本番まで残り13日となり、洗練されたものに仕上がってきました。これから更に磨きをかけていきます。

11/7土 8日

7日[土]——◆13時・入場者195名／19時・入場者195名
8日[日]——◆13時・入場者182名／17時・入場者210名　◉総入場者数782名

赤鬼

高校生と創る演劇

RED DEMON

出演者・学生スタッフ紹介

❶他己紹介 ❷今感じていること（稽古四週目）
❸あなたにとって「海の向こう」とは？そこで何をしたい？

CAST

秋葉 潤
赤鬼
村人 ドリ・女

Jun Akiba

❶きはじゅんは尊敬するくらいまじめだなと思います。普段はコミュニケーション能力が高すぎてびっくりさせられています！女子力が高いという面もあるんですよ！笑（野元結水）❷悔しかったという自分の中に生まれた気持ちを無駄にしたくない。❸空想上の世界、したいことは何もないけど、差別とか偏見とかの無いところだったら嬉しい。

市原麻帆
村人 チョウキリボ・超長老
会つたばかりの奴6

Maho Ichihara

❶まほは今回の赤鬼メンバーの数少ない二年生の一人です。芯がとても強くて、心優しい人です。動きがシュッシュッとしているまほは、超サイヤ人よりかっこいいです！（寺岡壱久）❷もっとなめらかに動きたい。もっと美しい音を出したい。欲が…。❸夢。今を生きる為の目標です。そこに着いたら、次の船出の準備でもしましょうかね。

伊藤由佳
とんび

Yuka Ito

❶明るくフレンドリーな伊藤園の周りには、いつも笑顔があふれている。時々天然な時もあるけど、それも皆を笑顔にさせる理由の一つなのではないかと思う。（秋葉潤）❷本番にむけてドキドキしています。でも、ワクワクもしています。❸海の向こうは海外の事だと自分では思っています。私は、フランスに行って、バリコレクションを生で観たいです。

寺岡壱久
村人 ウメ・秀松の母

Ikkyu Teraoka

❶ゴツめの秀松の母。（笑）オーディションで初めて見てやばい人だ…って思ったのを覚えています。しかし！実はやさしい！がんばり屋！（朝倉優香）❷疲労を感じています。温泉とか行きたいです。お子様ビールで乾杯！❸僕にとっての海の向こうは、笑い合える人々のいる所です。笑い合えればそれでいいです。LOVE&PEACE.

中神真智子
村人 サト・男
会つたばかりの奴3

Machiko Nakagami

❶まつちは、賢くて、ひとり旅を愛する高校二年生。そして、男前です！女の子は、きっとメロメロになつちゃいます。いつも「生懸命なところと、涙ぼくろがチャームポイント！（松尾理代）❷ドキドキとワクワク。私たちの「赤鬼」がどんな舞台になるのか。❸舞台の上。いつかプロの役者として憧れの役者さんと共演したい。憧れの人が見ている景色を私も見たい。

浪崎恵実
村人 マイタ・ばばあ
シメジ・じじい

Emi Namizaki

❶頼れる村長!!しっかり者でいつも率先して話し合いをまとめてくれます。真剣な時と楽しんで芝居をしている時の笑顔とのギャップが魅力的な人です。（市原麻帆）❷稽古・本番を早く終えたい。でも終わらないでほしいです。❸南の島の楽園です。時間を気にせずハンモックで読書をしたり、南国ならではの食事がしたいです。

STAFF

松井瀬奈
村人 カキ・女
シメコ・ばばあ

Sena Matsui

❶おっとりとしていて、私服が可愛い。そして、女性アイドルが好き。正に女の子の中の女の子です。瀬奈はいつも笑顔なので、癒されています。（浪崎恵実）❷人生で初めて誰かにお腹を見せます～！恥ずかしい（笑）❸私、泳げないんですよ。それに飛行機も船も大嫌いで…。みんなには言ってないけど本当は海が嫌いです（笑）

松尾理代
村人 キクラ・裁き屋

Riyo Matsuo

❶りっちゃんは、クールな見た目に反してとても情熱家です。わからないところはわかるまで聞いて、できないところはできるまで練習。そんなひたむきさがとても素敵な人です。（髙木はるか）❷17年生きてきて、見たこともない楽器に日々感動しています。❸空気がきれいな田舎。そこにすむこと。ひなたぼっこできる原っぱと、湧き水がくめる土地だと尚、よし。

朝倉優香
◆学生スタッフ

Yuuka Asakura

❶どの役の台詞もバッチリで、代役ドンと来いなスーパースタッフ。どーっても素敵な感受性の持ち主で、役柄についてみんなで話し合った時に誰より早く号泣していました。（笑）（琴屋菜緒子）❷稽古中、代役をすることが多くて難しい！けど学ぶ事も多くて楽しい！❸自由な所！ただただひたすら自由にしていたいです。たくさん寝てたくさん遊んで寝ます。ZZZ

金子奈央
◆学生スタッフ

Nao Kaneko

❶奈央のなんでも【Q&A】。【Q】動物だったら？【A】カメみたいなリス。【Q】第一印象は？【A】優しく賢く優等生タイプ!?ほんとは？奈央は、観察力があり頑張り屋さんです！（白井風菜）❷役者さんの演じられる作品が日に日に良くなる赤鬼の完成が楽しみです❸別世界である海の向こうは知らないからこそ、きっと想像することによってどんなものにでも変わる場所で、この世界のあまり知られてない海が最果てかもしれない。

髙木はるか
◆学生スタッフ

Haruka Takagi

❶はるにゃんはみんなのお姉さんです！キャスト一人一人のことをよ～く見てくれていて、的確なアドバイスも沢山くれるんです。代役も他のお仕事も完璧で凄くかっこいいです。（松井瀬奈）❷キャストの人たちがより輝くために私にできることはなんだろう？❸私にとっての海の向こうは、皆が平等な世界です。ありとあらゆる人と平等に、対等に暮らしていきたいです。

琴屋菜緒子
◆学生スタッフ

Naoko Kotoya

❶琴屋さんは同じスタッフの中でもとても頼り甲斐のあるムードメーカーの様な方。正にオカンという感じで、実はちょっとした憧れでもあります。（金子奈央）❷表現をするという事への果てしなさと楽しさ。舞台最高！❸私にとっての天寿光希さんのように、常に人の心に響き続けられる表現者。あなたの心にテレポーテーション！

河合舞花
◆学生スタッフ

Maika Kawai

與儀翔也
◆学生スタッフ

Syouya Yogi

PLAT
絶の国とよはし芸術劇場
TOYOHASHI ARTS THEATRE

秋葉 潤
赤鬼
村人 ドリ・女

Jun Akiba

❶きはじゅんは尊敬するくらいまじめだなと思います。普段はコミュニケーション能力が高すぎてびっくりさせられています！女子力が高いという面もあるんですよ！笑（野元結水）❷悔しかったという自分の中に生まれた気持ちを無駄にしたくない。❸空想上の世界、したいことは何もないけど、差別とか偏見とかの無いところだったら嬉しい。

金田帆那
村人 メロ・女
会つたばかりの奴4

Hanna Kanada

❶帆那はスラッとしていて、とても身体が柔らかく筋トレの時のBeautifulな姿にいつも見とれてしまうのであります!!!そんなキレイな帆那が大スキです♡♡♡（彦坂祐衣）❷危機感。（笑）本番までもうあと少しだと思うと緊張します。❸単純に、大陸！（笑）色んな国を旅してみたいです。その国の文化に触れたい！あと食べ物も太らない程度に…（笑）

近藤瀬里奈
村人 ダイ・男
会つたばかりの奴1

Sarina Kondou

❶瀬里奈は、最初静かだなって思っていたけれど、最近目が合うと変顔などしてきて、とても面白いです！あと、自分の意見をしっかりもっていて、一学年下なのにとても立派だと思います。（伊藤由佳）❷本番までに90分間すばらしい姿勢でいられるか不安でたまらない。❸私にとって海の向こうは天国です。そこで寝ながら大好きな石焼きビビンバを食べて吉本新喜劇を見たいです！

白井風菜
あの女

Hauna Shirai

❶ふうちゃんは大人っぽくて演劇大好きで変顔が、どおもしろいお姉ちゃん的な存在です！誰よりも努力家で、みんなをまとめてくれるリーダーふうちゃんは、私にとって超憧れです☆（近藤瀬里奈）❷ブラ1を目指してレッツゴー！ありのままの自分をさらけ出したい！❸無人島かなぁ。その島の動植物とお話できるようになりたい！島には牛を連れてって牛乳屋さんに俺はなる！

白木菜々美
村人 スイ・女
会つたばかりの奴2

Nanami Shiraki

❶何故か。さくぼん～と呼ばれる菜々美は（笑）、同じ年なのに「お姉ちゃん」的存在。いつも相槌を打ちながら話を聞いてくれています。まだまだ足りないね！菜々美！（長谷川恭加）❷不安だ！怖いぞ！でもワクワクが止まらない。はやく観てほしい。❸美味しい食べものと素敵な景色が広がっている場所。たらふく食べて、お腹も幸せもいっぱいになりたい！

野元結水
村人 レン・男
会つたばかりの奴5

Yumina Nomoto

❶とても真面目で、やると決めたら一直線に向っていくひたむきさと、稽古場をほんわかと和ませてくれる天然さでいつも癒されています。「言でいうなら大きな天使です。（兵藤真世）❷出来ないことがたくさんあるけど、出来るようにしていくのが楽しい！❸キラキラした所だと思います。食べたことのないようなものがたくさんあると思うので、おいしくいただきたいです！

長谷川恭加
村人 タケ・秀松の父

Kyouka Hasegawa

❶ちょっとオジサンくさいところもあるけど、やんわりと皆をまとめてくれる優しいお姉さん。いつも誰よりも声を出している姿に、「自分も見習わないと！」と思わされます。（白木菜々美）❷キャストのみんな、スタッフのみなさん、観て下さる方々に感謝！❸家から出て一人暮らし。ジャンクフードを片手に持って、鼻歌まじりでコーラを飲み干す（飲めません）。

彦坂祐衣
村人 キリボ・長老

Yui Hikosaka

❶祐衣は励ましてくれたり変顔で笑わせてくれたり、すごくおもしろくて良い子です。嫌な事を忘れさせてくれるテディベアって感じ！（笑）元気をもらっています。（金田帆那）❷ファミマのドーナツがとてもおいしくて、幸せ絶好調です☆☆☆❸私の好きな食べ物がたくさんあって、大スキな松倉海斗くんに、「あーんっ♡」してもらうことです。

兵藤真世
水銀（みずかね）

Mayo Hyoudou

❶まよは、いつでも明るくて面白い人です！でも陰では誰よりもストイックに頑張っています。そんなまよをこっそりと眺めるのが好きです。そして笑顔がとってもステキなので！（中神真智子）❷毎日の筋トレで全身が悲鳴を上げています。がんばれ腹筋。❸これから切り開いていく未来です。そこで自分にかできないことを後悔しないようにしたいです。航海だけに。

赤鬼
高校生と創る
演劇
RED DEMON
I have a dream that one day this world will rise up and
live out the true meaning of its creation.
We hold these truths to be self-evident that all men are created equal.
Let freedom ring. I have a dream that
one day let freedom ring from every hill,
from every mountainside, every village and every hamlet,
from every state and every city.

高校生キャストスタッフ

アンケート

1 5月のオーディション ワークショップについて

●ワークショップ形式ということもあり、面接形式ほど緊張せずに参加することができた。世莉さんがどんな演出家なのか知ることができたのも良かった。

●演技をするだけではなく、歩いたり、名前鬼をしたり、すごく楽しかった。休日だったので日時もちょうど良かったです。

●緊張しすぎて、力が入りすぎておかしなテンションだったと思います。温かい・冷たい・高い・低いを体で表現することがとても楽しかったです。

●ワクワク、ドキドキしていました。最初、世莉さんに「今、どんな感じ」と聞かれて、すぐには何も言えませんでした。考えないで、今の気持ちを声に出すのは難しかったです。

●すごく緊張していて期待と不安でいっぱいでした。体力には自信があったのでどんどん前に出ていったのを覚えています。初対面の仲間とセリフを読むのは少し不安でしたが、一度感情を開放してしまうと不安が吹き飛んでいきました。それからは楽しい気持ちしか残っていません。不安や緊張をおそれずに表に出すことがどれだけ大切かということが分かりました。

集計結果 1

ワークショップオーディション		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	日時	5	7	4	0	0
スタッフ	日時	2	1	2	0	0

※スタッフ＝無記入1名

2 プレワークショップについて

●とても充実していました。この4日間で自分の役が決まると聞いて焦りもありましたが、目の前で要求されていることだけに集中できたので良かったです。そして、なにより感情開放できた時の感覚が掴めたことが一番の喜びです。また、ビューティーレッスンのハードさに驚きました。この4日間で痩せましたが、それくらいに体や心を使うことは大変なんだと思いました。

●初めてのビューティーレッスンはかなりきつかったです。これから稽古が始まるまで、始まってからもこれを続けると思うと正直ついていけるのか?と思いました。でも楽しかったです。最終日の及川さんの衣裳ワークショップと市来さんの音のワークショップは色々なことを体験できて楽しかったです!

●市来さんの「音のワークショップ」が印象的でした。初めて見る楽器がズラッと並べてあるのを見て驚きました。その中でも好きな楽器を本番で使うことができて嬉しかったです。最終日に役を決めると聞いたとき、「早っ」と思いました。私には、8月中にはまだ、皆がどんな人なのかわかりませんでした。

●自分が今までやってきた事とは全然違っていて戸惑いました。しかし、やっと自分の中だけの演劇から抜け出せるかもと思えました。

●とにかくひたすらビューティーレッスンが辛かったです。1~3日目のリピテーションで世莉さんが私の感想に対してアドバイスをくださって、その内容が本当に私の悩んでいたことと一致していて感動しました。4日目の衣裳と音のワークショップは本当にありがたかったです。演劇部じゃないので、裏方のスタッフさんたちの仕事について全然知らなかったし、音の出し方も初めて知ることばかり、知らない楽器ばかりでびっくりしました!市来さん可愛かったです!

集計結果 2

プレワークショップ		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	日時	5	6	2	3	0
スタッフ	日時	1	2	1	0	0
キャスト	長さ・回数	7	7	0	2	0
スタッフ	長さ・回数	2	1	1	0	0
キャスト	内容	9	7	0	0	0
スタッフ	内容	2	1	1	0	0

※スタッフ＝無記入1名、不参加1名

3 稽古について——

●「舞台は稽古1日目で決まる」と言われた時、びびりました。9月いっぱい与えられた自主練期間では、ワークショップでは動かなかった体をどうにかするために必死でした。ビューティーレッスンは大変で、なかなか体幹を使う感覚が掴めなかったですが、少しずつ分かっていきました。学校と稽古の両立は難しかったですが、同じ立場の仲間が沢山いたので乗り越えられました。

●1ヶ月はなんだかんだ長くて短かった。毎日が、分からないことへの恐怖と、できるようになることの楽しさと、できないことでの悔しさの連続だった。けど今思うと、今までで一番密度の高い1ヶ月だった。

●苦手だったメニューがある日突然楽にできるようになった、という経験を何度もしました。自分の体が育っているという実感が持てて非常に楽しかったです。

●もっと稽古時間が欲しかったです。今回は動きのフリが多かったので不安の多いまま本番が来てしまった印象があります。内容は濃くて充実でした。

●毎日が楽しく、稽古に行く度に、今日は何やるのかな?明日は何やるのかな?って思っていました。本当に充実していました。

●話し合う時間が全然なかったのが気になっていました。動きの面で学ぶことが多かったです。世莉さんに言われた「それが演劇だ」という言葉と、その時に起きたことに一番衝撃を受けました。

●テストや修学旅行と稽古時期が重なるのはとても大変でしたが、それも含めて日々の稽古は充実していました。

●毎日悔しくて、たまりませんでした。でも、稽古を通して色々な人の考えを聞いて、新しいことを知ることは、怖くて難しいけれど、楽しくて素敵なことだと思えるようになりました。

●最初、週6辛いなーと思っていたけど、稽古が進んでいくにつれて気にならなくなりました。開始時間に間に合わない事が多くて申し訳なかったです。学生スタッフにも代役など役割が沢山あったのが本当に嬉しかったです。基礎練に時間をかけてできたのも良かったです。

●しっかりと充実して劇が作っていけたと思う。日程も、高校演劇よりずっと余裕があって、気が楽だった。ただ、もう少し自分たちで考えて動けたんではないかと思う。もっと私にできたことはなかったか、今でも時々考える。

集計結果 3

自主練習		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	日時	9	6	1	0	0
スタッフ	日時	2	3	0	0	0
キャスト	長さ・回数	11	3	1	1	0
スタッフ	長さ・回数	2	3	0	0	0
キャスト	内容	13	3	0	0	0
スタッフ	内容	3	2	0	0	0

※スタッフ＝無記入1名

4 公演を終えて——

●やってよかった!!技術的にも精神的にも成長できた。

●とても楽しかったです。でも、自分にはもっとできたんじゃないかという後悔が少し残っています。1日に2回の公演は大変だったけど、そのおかげで舞台に立つ楽しさをよりよく知ることができました。また、沢山の楽器に触れることや、ユニークな衣裳や髪型をすることで、「こういう使い方や考えもあるんだなあ」と思い、とても勉強になりました。

●公演が終わってから、言いたいことや、やってみたいことを我慢していたことに気がつきました。相手を尊重しているつもりで、自分が臆病なために伝えられなかったことが沢山ありました。お芝居にしても、勉強にしても、仕事にしても、100%後悔なく成し遂げることはないと思いますが、こんなにもはっきりと何について後悔しているか分かることも、おそらくないと思います。終わったことの達成感以上に、これから自分が成長するために何をするべきなのか、浮き彫りになったことを忘れないうちに実行したいと、うずうずして仕方ありません。

●未だに公演の時の体温や感じていたことを覚えていて、振り返る度にもう1回やりたい、戻りたいと思ってしまうほどに楽しかったし、やりがいがありました。少し寂しくなる時もあります。でも、赤鬼に参加することで得たことが沢山あるので、あの時できなかったことをなにかしら自分でやりたいと思っています。本当に色々なことを学ぶことができたと思います。

●達成感がありました。本番では失敗もありましたが、自分なりに沢山稽古して、千秋楽で全ての力を出すことができたと思います。ビューティーレッスンはとてもきつかったですが、それなりにいい身体ができたのではないかと思いました。

●自分の身体の色々なことに気が付くようになり、呼吸とか、肩に力が入っているなあとか、たまに気にかけるようになりました。

●ビューティーレッスン、意外と好きだったみたいです(笑)終わってからすごく恋しくなりました。本当に濃い時間でした。もっと体力をつけようと思いました。私が将来、舞台を続けていくことは正直困難であるなと現実をみてしまったのと、「やりたい」気持ちと「できない」気持ちが重なって本当に苦しかったし、悔しかったし、稽古では沢山悩みました。

●とても悔しいです。素晴らしい劇だと思いました。だからこそ自分がキャストになれなかったことがとても悔しかったです。その一方で、この16人だからこその赤鬼ができたとも思うので、私がキャストでなくて良かったという思いもあります。こんな風に色々なことを考えさせてくれる作品に関われたことは私にとって一生忘れない思い出になると思うし、誇りに思っています。

●一時は準備が間に合うかなと不安だった時もありましたが、無事上演できて良かったです。舞台上のキャストは皆いきいきとしていてすごく楽しそうで、空間全体にそれが伝わっていて見ていて感動しました。

高校生キャストスタッフ

アンケート

5 この企画に参加することで当初どんなことを望み、何をしたいと思ったか？またそれらは実現されたか？

●技術の向上と、自分がどこまでできるかを知りたかった。結果的にはどちらも実現できた。

●前回の転校生が羨ましくとにかく参加しようと思った。何をしてもなんとなく中途半端なことが多かったので、本気になりたかった。

●昨年の「転校生」で、すごく後悔したことがあり、もやもやしたので「赤鬼」ではお客様にしっかり伝えられたらいいなと望みながら稽古をしていました。本番ではそれを実現できたと思います。

●自分に新しい風を吹かせたいと思い参加しました。部活でも演劇をやっているので、違った場で、違う仲間でやりたい！視野・世界を広げ色々な演劇を知りたい！と思いました。学校の型にはまりたくなかったし、プロの演出を受けたいと思っていました。本当に視野が広がり、可能性も広げられました。

●プロの演出家、俳優、スタッフの方の仕事を生で見てみたいと思いました。第一線で活躍されている方の熱に触れられて、幸せです。

●高校生と創る演劇への参加は「穂の国の転校生」に続いて2作目ですが、自分の能力を伸ばすこと、プロがどのようにして作品をつくっているのかを知りたいと思い参加しました。実現されたと思います。ビューティーレッスンのおかげで今までできなかった動きができるようになったし、プロの作品づくりという点ではマイズナーテクニックを使って作品をつくるなど具体的なメソッドを知ることができたのでよかったです。

●沢山の出会いを求めていたのと、進路選択の参考のために参加しました。高校生だけでなく各方面の大人に出会い、普段の生活では得られない刺激を沢山受け、知識や考え方を広げることができました。また、一つの作品を作りあげるためにどの役割の人がどれくらい必要で、どんな仕事をするのかを身近で感じることができたので、進路の参考になりました。

●当初はなんとかして演劇を続け、できればキャストとして舞台に立ちたいと思っていました。残念ながらキャストにはなれませんでしたが、スタッフとして何ができるかと常に考えていました。完璧にキャストをサポートできたとは言い難いですが、誠心誠意スタッフを全うすることができたと思います。

6 今後プラットに対する期待・要望

●「赤鬼」という作品を通じて、それ以外の作品にも触れることができました。このような機会が今後も続いていけばいいなと思います。

●高校生と創る演劇、市民と創造する演劇をこれからも続けてください。

●演劇に関わりのない人が私のまわりには沢山います。もっと、多くの人が観劇したり、お芝居に興味を持てるような企画があったらと思います。

●この企画、続けてほしいです。当時の絆が今も生きている事を感じますし、そのメンバーとはなんでも話せるので、クラスメイト以上の存在になりました。みんなの姿を見ていると「私もがんばろう」と思うのです。そんな出会いをするなんて一生無いかもしれないので。

7 その他、ご意見・メッセージ等あればご自由にお書きください。

●この企画に参加でき、本当に幸せでした。ありがとうございました。プロのスタッフの方々のもとで舞台に立てるという良い経験になりました。感謝しています。高校生と創るこの企画はこれからも続けていってほしいです。今年、高3の夏をプラットで過ごせて良かったです。

●赤鬼のスタッフ、キャストがもう集まることがないのかと考えると本当に悲しいです!!赤鬼の稽古を経て、自分がどれくらいの辛い壁を乗り超えられるのか分かりました。

●高校生と創る演劇企画、第一弾はお客さん。第二弾はスタッフとして見守らせていただきました。本当に、「穂の国の転校生」も「赤鬼」もどっちも大大大好きです。来年も続けて下さい。その後もずっと続く企画になって欲しいです！

Newspaper Article

新聞記事

※掲載の記事・写真は各新聞社の許諾を得て掲載しています。

朝日新聞／2015年11月6日掲載

公募高校生、「赤鬼」の舞台

豊橋で7・8日上演

野田秀樹さん作 プロ指導

本番に向けて練習に励む高校生＝豊橋市西小田原町

野田秀樹さん作の舞台「赤鬼」が7、8の両日、豊橋市西小田原町の一穂の国とよはし芸術劇場プラット」で上演される。孤島に漂着した「赤鬼」と呼ばれる異国の男と村人たちの物語。演じるのは公募で選ばれた地元の高校生16人。プロの指導を受けながら本番に向けて練習に励んでいる。

出演する高校生は、いずれも豊橋文化振興財団が公募した。昨年度から始まった「高校生と創る演劇シリーズ」の第2弾。28人の中からオーディションなどを経て、16人が選ばれた。舞台経験がない生徒も半分ほどいる。プロの演出家とスタッフを招き、本格的な舞台芸術を体験する。

出演者は「今までで一番おもしろい演劇にする」と意気込む。演出には、新国立劇場演劇研修所などで指導者としても活躍する「時間堂」主宰の黒沢世莉さんを迎えた。体験講座などで演技の基礎を学んだ後、自主練習を経て、9月末からほぼ毎日、けいこを続けている。

男女5人の高校生も裏方としてプロのスタッフとともに舞台を支える。

物語は「ごんぎつね」「あの女」「ミスカネ」の3人が住む孤島の村に異国の男が漂着した場面から始まる。赤鬼は人を食べると思われ、村人たちに迫害される。処刑が決まるが、村八分にされている「あの女」が赤鬼と徐々に心を通わせ、「ミスカネ」と一緒に助け出そうとする。

劇を通じて「人間の心に潜む差別」を問いかける作品だ。藤ノ花女子高校3年の伊藤田佳さんは前回作品に続いての出演で、「昨年は練習不足で自分の中では納得する演技ができなかった。今回は完璧にやり通したい」と話す。役のため長い髪を切り上げて舞台に立つ。

今回は、主ホールに正方形の囲う舞台と客席を設け、体全体を使って上演する。体全体を使った舞りなど躍動感のある演技と、出演者自らが舞台の上で効果音や音楽の演奏にも挑戦する。

黒沢さんは「高校生の躍動する姿から、汗と息吹から、言葉にも言にもならない質感と未来を描きたい」と語る。

上演は、7日午後1時と同7時、8日午後1時と同5時の計4回。上演後、黒沢さんと出演者らによるトークイベントもある。料金は一般2千円。問い合わせは、同劇場（0532・38・8810）へ。（松本佳穂）

中日新聞／2015年11月1日掲載

プロ演出で高校生が演劇

豊橋で7、8日に「赤鬼」上演

写真上 拍手をする出演者の高校生たち 写真下 演技を見つめる演出家の黒澤世莉さん＝いずれも豊橋市西小田原町の穂の国とよはし芸術劇場プラットで

オーディションで選ばれた高校生とプロの演出家による「高校生と創る演劇」が七、八日、豊橋市西小田原町の穂の国とよはし芸術劇場プラットで上演される。昨秋上演した「穂の国の「転校生」」に続き二回目。野田秀樹さん作「赤鬼」を、劇団「時間堂」堂主で演出家の黒澤世莉さんが演出し、豊橋市と静岡県浜松市の高校生十六人が演じる。（小豊明彦）

ある日、村の砂浜にンがあり、本番までの肌の色も言語も違う「異人」が打ち上げられる。人を食らう「赤鬼」と誤解した村人は、追放した揚げ句、処刑を決めるというストーリー。

観客が四方を取り囲む特設舞台で、出演者は、波の音や赤ん坊の泣き声などの効果音も演劇を面白いと思ったも、道具を使って、生音で表現する。

五月にオーディション

「ばばあ」と「じじ」指導して

オーディションを演じる時盲高校（豊橋市）の浪崎恵実さん（七）＝二年＝は吹奏楽部に所属する。演劇は畑違いだが、稽古では演出家やスタッフとの調整役も担ってきた。

「自分自身、転校が多く、言葉が違うと変な目で見られたし、学校にはブラジルの人もいる。異文化のものを受け入れるか受け入れないか、考えさせられた」と語る。

豊橋に一カ月滞在し指導してきた黒澤さんは「全員がプロの演劇人になるわけではないと思うが、挫折がありながらも、『やってやった』という体験ができるといい」と話す。

七日は午後一時と七時、八日は午後一時と五時に上演。一般一千円、二十四歳以下千円、高校生以下五百円。終演後に演出家と出演者によるトークもある。問プラットチケットセンター＝0532・39・3090

STAFF

作——野田秀樹
構成・演出——黒澤世莉【時間堂】
ムーブメント——小林真梨恵【waqu:raz】
演出助手——直江里美【時間堂】
美術——原田愛
照明——榊美香
音響——市来邦比古
衣裳——及川千春
舞台監督——鈴木輝※
音響操作——平野景彩※
宣伝美術——共田慎性【エクスラージ】
宣伝写真——萩原ヤスオ
記録映像——田中博之
制作——矢作勝義※
永田直子※
高田装子※
制作助手——加藤仲葉【ままごと】
※穂の国とよはし芸術劇場

協力——岡本漁網株式会社
時間堂
専門学校中部ビューティ・デザインカレッジ
ヘアサロンはせがわ

企画制作／穂の国とよはし芸術劇場PLAT
主催／（公財）豊橋文化振興財団
共催／豊橋市

文化庁
平成27年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業